



CM等でよく使われる風景



茅吹手

かやぶくて

茅吹手といえば、何といっても沈下橋である。橋のデザインがシンプルなうえに、国道から離れていて周りに人工物がない。また、川の蛇行具合の程良いポジションにあり、どこから眺めても「これぞ四万十川の風景」と、人々をうならせる景観の主役を演じている。特に少し離れたところを走る国道から眺める景色は、CM等にもよく使われるように、四万十川中流域の景観の象徴とも言える。行楽シーズンでなくても、他府県からと思われる通りがかりのドライバーたちが、しばし車を止め、手持ちのカメラで、この絶景を撮影しているのをよく見かける。

正式名は「新谷(しんたに)橋」というのだそうだ。国道から橋へと降りる坂道に橋の説明書きがある。四万十川と、それと平行して走る国道381号の南北両岸に沿った急峻な山に挟まれて、平地面積が限られていることから、この地区の人々は、山の斜面をうまく利用して家屋や田畑を作り、生活の場としてきた。かなりの知恵と工夫をこらして生活してきたことは、現在の地区の風景からもひしひしと伝わってくる。昔から川漁師の多い地区でもある。

全町的にそうであるように、この茅吹手も子どもの減少と高齢化が顕著な集落である。夏の盛り、沈下橋周辺で遊ぶのは、昔は地域の子どもたちであったが、今は観光客の人々の方が圧倒的に多い。しかし、それも、この景観に多くの人々が魅力を感じているからである。沈下橋と周辺の景観は、後世に残すべき宝物であることを実感する。橋のすぐ近くを、トロッコ列車が行く。乗客の視線がこの素晴らしい景観に釘付けである。



国道から沈下橋へ降りるところにあります

町のうごき	(2月28日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出	適正值(mg/l)		3月8日
	男	9,008	-19	男 3	15	7	14	リン酸	≤ 5.0	測定値以下
	女	10,113	-25	女 4	14	7	22	硝酸	≤ 0.5	0.264
	計	19,121	-44	計 7	29	14	36	アンモニウム	≤ 5.0	測定値以下
		世帯数	8,786	-10	(2月中の届出)			アニオン活性剤	≤ 1.0	0.4
								化学的酸素消費量	≤ 10.0	2.015

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報『四万十町通信』はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部